
出会いは早朝

高居望

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

出会いは早朝

【コード】

N0440V

【作者名】

高居望

【あらすじ】

俺と光の出会い。それは早朝の・・・

これからの人生絶対忘れることはないって断言できる思い出。どんなに忘れっぽいやつでもこれだけは絶対に忘れない。そんな思い出があるだろ。

俺にとってのそれは・・・^{アイツ}光との日々だ。

光、白里光は俺にとって一番の人だ。あいつとの出会いは、公園でのランニング・・・

18歳の俺は部活とかをやってるわけではないけど、ランニングが趣味だ。毎日早朝に近所の公園を走ることが日課になっている。

今日はいつもより30分早く起きたから長く走れるな。早速準備運動をしてランニング開始。

俺の心臓が心地よいビートを刻むようになってきたとき、前方に座り込んでいる女の子が。俺より2、3歳下ってところか、あまり見かけない顔だな。

足をくじいてしまったのだろうか、道の真ん中から動く気配がない。

以前俺も彼女と同じように脚をくじいてしまったことがある。そのときは俺の後ろを走っていた若い兄ちゃんが助けてくれたっけ。

あのときの”人って優しいんだな”って気持ちを思い出して、俺もあの娘を助けてやるかと決心。

「あの・・・よかったらそのベンチまでおぶりましょうか？」

「えっ・・・あ、ありがとう。その、お願いします・・・」

突然話しかけられて少しきょとんとした顔をしていたが、素直に助けを求めてきた。

俺は前に回りこんで背中を向ける。彼女は少しためらったが、俺に体を預ける。

年頃の女の子をおんぶするなんて経験は一度もなかったなので、の

どがからからになる。

俺はできるだけ緊張を隠してベンチまで連れて行ってやる。

「あの、ありがとうございます」

自分の失態からか、少し顔を赤らめている。

「いや、大したことじゃないし気にしなくていいよ」

「私・・・白里光っていいいます。同じ学校ですよね？」

「え・・・そうなの？見たことない気がするけど、1年生？」

「はい・・・」

今は6月、新人生なら見たことがないのもうなずける。でも、それは彼女にも言えることだけど・・・

「先輩はいつもここでランニングを？」

「ああ、ほぼ毎日やってるかな」

そういうと少しの無言が訪れる。女の子と会話するにはそんなに慣れてるわけじゃないから、再び俺の中に緊張が走る。

「あの・・・明日も走る予定ですか？」

「・・・たぶん」

唐突な質問に俺は答える。

「じゃあ・・・明日この時間にここに来てください。助けてくれたお礼をしたいので」

と彼女は言う。正直礼をされるほどのことでもないけど、相手がそう言っているなら特に逆らう理由もないな。

「わかった。家までは一人で帰れるか？」

「もう痛みもおさまってきたので大丈夫です」

「そっか、じゃあまた」

「・・・はい」

これが光との出会い。このあとどうなっていくのかは、”二人のみぞ知る”ところだな。

ちなみに今日は彼女とのデート。相手が誰かっなのは・・・

(後書き)

こんんちは、高居望です。

前回恋愛小説を書こうとしたのですがうまくいかなかったので、再チャレンジしました。

最後まで読んでくださった方、ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0440v/>

出会いは早朝

2011年10月9日11時56分発行